

訓  
覇  
浩  
氏



真宗大谷派金藏寺住職／大谷大学  
同朋大学非常勤講師／ハンセン病  
市民学会共同代表・事務局長／元  
解放運動推進本部本部委員

ドリ  
アン  
助  
川  
氏



明治学院大学国際学部教授／作家  
／歌手／ラジオ深夜放送のパーソ  
ナリティとしても活躍／自身が原  
作の小説『あん』は映画化され、  
2015年カンヌ国際映画祭のオー  
プニングフィルムとなる

徳  
田  
靖  
之  
氏



弁護士／ハンセン病国賠訴訟西日  
本弁護団代表／在宅障害者支援  
ネットワーク代表世話人／だれ  
もが安心して暮らせる大分県条例  
をつくる会共同代表

# 人間を生きるとは

## ～ハンセン病問題に学ぶ～

＜人間（じんかん）一人と人との間（はざま）を生きる者＞

ハンセン病という病気をご存知ですか。ハンセン病患者というだけで、人間らしい生活をおくる事が許されなかった、多くの人達の存在をご存知ですか。

人の抱える苦しみや悲しみに目を向けることなく、その人の存在を見ようとしない。国策により社会から隔離された人達は、今も精一杯生きています。

人と人との間を生きる者という人間の在り方を、今、見つめ直してみませんか。「人間を生きる」とはどういうことなのでしょう。

僧侶、作家、弁護士、それぞれ違う立場でハンセン病問題に関わり続けてこられた3名をパネリストにお迎えし、お話をお聞きしたいと思います。

みなさんもこの機会にハンセン病問題を共に考えてはみませんか。

**日時** 2023年 5月 26日(金) 14時30分～17時30分

**場所** 北海道教務所(北海道東本願寺会館)  
札幌市中央区南7条西7丁目290番

**参加方法** ① 会場参加 (定員35名) ② Zoom参加

**申込み先** 右のQRコードよりお申し込みください  
**申込期限：5月16日(火)**

参加費無料



お問い合わせ 北海道教務所 (担当：鷲嶺) ☎011-511-5211

# ハンセン病問題公開シンポジウム 「人間を生きるとは」 開催にあたり

真宗大谷派北海道教区のハンセン病問題班はこれまで、ハンセン病療養所へ訪問し、回復者との交流を通して直接お話を聞くことを大切に活動してきました。しかし新型コロナウイルスの感染拡大により事態が一変し、療養所への訪問や回復者と会うことが出来なくなりました。

このような状況が続く中、どのようにして私たちはハンセン病問題の学びを続け、この問題が問いかける課題を多くの人々に発信し、共有していくことができるだろうか。そういう思いの中で協議を重ね、この度、公開シンポジウムを企画し開催する運びとなりました。

ハンセン病問題は決して過去の問題では無く、現代を生きる私たちに無関係の問題ではありません。隔離政策がもたらした差別意識は根強く社会に残り続け、今も元患者やその家族を苦しめ続けています。また、新型コロナウイルス感染症が全国に広がり始めた頃、言い知れぬ不安の中、自らの感染を避けるために感染者に対して向けられた視線の先にも、ハンセン病問題と共通した問題が潜んでいたように思っています。

テーマを「人間を生きるとは」とし、私たちは人間として生を受けながら、本当に人間を見失わずに生きていると言えるのでしょうか。「人間らしく生きるとはどのようなことなのか」という問いに立ち、一人ひとりが自分にとってのハンセン病問題とは何かを考えるシンポジウムになることを願いとしています。

3名のパネリストが語る言葉を聞き、共にハンセン病問題について考える機縁になることを念じております。



コーディネーター

**畠平 諭**

北海道教区 ハンセン病問題班 班長  
真宗大谷派 第12組 廣圓寺 住職

## シンポジウム タイムテーブル

14:00	開場（受付開始）
14:30	開会式・準備
14:50	シンポジウム 第1部（60分）
15:50	休憩（10分）
16:00	シンポジウム 第2部（60分）
17:00	質疑応答（20分）
17:20	閉会式

※シンポジウム終了後、書籍販売ブースにてドリアン助川氏著『あん』をご購入の方を対象に、サイン会を開催します（数量限定）

主催 真宗大谷派北海道教区社会問題研究部会ハンセン病問題班